

MAINTENANCE BOOK

Garden & Exterior



このメンテナンスブックは、お庭を長く快適に、安全に使い続けていただくためのご案内です。

外構や庭は、年月とともに少しずつ表情が変わっていきます。その変化を「劣化」ではなく「味わい」として楽しみながら、必要なタイミングで適切なお手入れを行っていただくことで、美しさと機能性を長く保つことができます。

「これで合っているかな？」と迷ったときに、気軽に開いていただける一冊としてご活用ください。ご不明な点があれば、いつでもご相談ください。

お手入れガイド 北海道版

アルミカーポート

表面の汚れを放置すると染み、腐食、色落ちする恐れがあります。

1. 表面のホコリ・砂を落とす。

柔らかい布に水を浸し、洗い落とす。

2. 水拭きする。

柔らかい布やスポンジで全体を水拭きする。

※水拭きで落ちない場合は

中性洗剤(1%~2%の水溶液)で軽く洗い流す。

3. 水分をふき取る。

柔らかい乾いた布で水分をふき取る。

※この時強くこすると表面の塗膜を傷める恐れがあります。



冬期間のお手入れ

●凍結する前にゴミ出しエルボのキャップを外しておいてください。雨樋内での凍結破損のリスクを低減することができます。

●暖気が入る時期は昼夜の寒暖差で雪が締め固まります。大変重く危険なため、定期的に雪を下ろすようにしてください。場合によっては耐荷重制限を超過し倒壊する恐れがあります。雪下ろし時にカーポートの上に乗ることは危険ですのでやめください。

使用上のご注意

お手入れ時に、乾いた布、シンナーやベンジン、研磨剤、熱湯を使用すると、破損・変形を招く恐れがあります。鳥のフンなどをへらで取り除く際はパネルを傷つけないようご注意ください。金属製のヘラやブラシは表面の塗膜を傷つけるので使用しないでください。

アルミ製品・ステンレス製品

フェンス、門扉、表札、照明器具、
デッキ部材など

●アルミについて

アルミは錆びにくい性質を持ち、メンテナンスの手間がさほどかからない金属です。しかし、表面に付着した汚れを長期間放置すると腐食の原因になります。それを防ぐには、年数回の水洗いと乾拭きが有効です。汚れをためないお手入れが、施工時の美しい光沢を守ることにつながります。

・アルミ腐食の原因

アルミの腐食の原因は、大気中に含まれるほこり、すす、鉄などの金属粉、自動車の排気ガス、海塩などです。これらがアルミの表面に付着し長期間放置されると、湿気や雨水の影響によって腐食していきます。

●ステンレスについて

ステンレスは耐食性に優れた錆びにくい金属ですが、使用条件や環境により汚れがたまつたり付着物によるもらいサビが発生します。ステンレスの美観を保つためには年に3~4回の水拭きと乾拭きのお手入れをおすすめいたします。

・ステンレスの錆びる原因

ステンレス製品にはクロムが含有されており、この成分が空気中の酸素と結合し、ステンレス表面に酸化被膜を形成します。この被膜が錆を防ぐ働きをしますが、汚れなどによってこの被膜が破壊されるとそこにもらいサビが発生します。主な原因は土、ほこり、鉄粉、排気ガス、海塩などです。

使用上のご注意

洗剤は中性洗剤を使用し、酸性洗剤は避けるようにご注意ください。金属たわしや金属ブラシなどは表面を傷つけるため使用しないでください。清掃箇所以外の他の部位に強い処理が及ばないようにご注意ください。

お手入れガイド 北海道版

アスファルト舗装

●アスファルト舗装の特徴

アスファルトは粘り気のある石油製品で、骨材(碎石、砂、石粉)を一体化させる接着剤のような役割をしています。そのため敷きたてのアスファルトは熱で柔らかくなりはじめる軟化点(50°C前後)があり、日差しや外気温で表面温度がこの軟化点に達すると、タイヤで凹んだり変形するなどが起こる可能性が高まります。地下茎で増殖する植物類が地中から突き抜けてくることもあります。**→路温を上げないことがポイントです。**

通常のお手入れ

1, 散水により、表面温度を下げ一時的に軟化を防ぐ。

十分な散水をおこなうことで気化熱によりアスファルト表面温度を下げるることができます。これにより路温を下げ、凹みや変形を軽減することができます。

2, 雑草の突き抜けには除草剤を撒く、周辺の雑草を処理する

※雑草の突き抜けが酷く表面の舗装がぼろぼろと崩れる場合はメンテナンスをお呼びください。有償ではありますが、舗装の補修等をおこないることができます。

3, 竹ぼうきなどで掃き掃除をする。水洗いをする。

アスファルト舗装の表面に砂利があると舗装面の破損の原因になります。また、砂ぼこりと混じって草の種が付着すると発芽する可能性もあります。定期的な掃き掃除や散水による掃除をして下さい。

特に夏場の路温上昇は思ったよりも大きいものです。上記を実践し注意していても起こりますし、製品不良というわけではありません。有償でのメンテナンスを実施していますので必要な方はお申し付けください。また経年変化により路温上昇の仕方は変化します。経過に合わせてお手入れをおこなってください。

冬期間の注意事項

- ・アスファルト舗装の上で氷割りをしないでください。舗装面の破損につながります。
- ・雪かきスコップで表面を強く擦らないでください。骨材の脱落につながる恐れがあります。
- ・お湯をかけないでください。凍結による転倒リスクにつながり、大変危険です。
- ・昼夜間の寒暖差で夜間にブラックアイスバーンになる場合があります。転倒に注意してください。
- ・融雪剤を撒くと劣化や染みを引き起こします。



スギナによる突き抜け



タイヤによる凹み



除雪機による凹み

※自転車のスタンドでも
このように凹みます。

そのほか、荷重が一定時間かかる場合や、タイヤ等の切り替えしによる擦れは舗装の摩耗やへこみにつながります。しかし、完全に防ぐことはできないため、駐車や歩行に支障がないものであれば使用上問題ないとお考え下さい。

スギナ等の雑草の突き抜けが見られた場合

スギナは日当たりのよい酸性のやせた土地を好みます。繁殖力が旺盛で地下茎で増えるため、ご自宅の敷地や周辺にもともと自生している場合、それをすべて取り除くことは困難です。除草剤を撒くことで一時的に地上面のスギナには対処できますが、根本的な解決とはならない場合が多いです。ただし、土壤の変化や周辺環境の変化に伴い自生する植物の種類が変化していく場合もありますので、除草剤等で長い目で対応をしていくことがおすすめです。突き抜けてきたら放置せずすぐに対応することもその後の群生を防ぐことにもつながります。手が付けられずお困りの場合はご相談ください。

※突き抜けができない舗装材にリフォームすることも効果的な場合があります。

お手入れガイド 北海道版

コンクリート舗装

●コンクリート舗装/土間コンクリートのお手入れ

コンクリート舗装の表面は汚れが目立ちやすいです。特にタイヤの痕はよく目立ちます。タイヤの痕が付く理由は、タイヤとコンクリートの摩耗です。特にタイヤの切り返し時に大きな負担がタイヤにかかり擦れて痕が付きます。これによる強度の低下や耐久性の低下はなく問題はありません。またコンクリート打設時に凝結する際の化学反応により生じる熱や打設後の乾燥収縮が原因でヘアクラック(髪の毛程度の太さのひび割れ)が生じることがあります。こちらも品質上問題はありません。また打設範囲によっては乾燥時間の違いにより色むらが発生することがあります。こちらも品質上問題はありません。

通常のお手入れ

1. 水とデッキブラシで定期的に掃除をする

表面に付着した汚れは水とデッキブラシで擦ると取れることができます。高圧洗浄機をかけることもできますが、出力によっては表面を傷める可能性もあります。目立たない箇所で高圧洗浄機を地面から離した位置から試すなどして様子を見てからご使用ください。洗剤は変色や表面の劣化を招く恐れがあるため使用しないでください。

2. 大きくひび割れた場合は業者を呼ぶ

大きなひび割れは様々な原因が考えられます。放置せずに担当者や弊社までご連絡をお願いいたします。早期の対策がコンクリート舗装の延命につながります。

3. 砂ぼこりや砂利は柔らかいほうきで掃き掃除をする

砂ぼこりや砂利が舗装面にある状態で駐車を繰り返すと摩耗が強まる場合がございます。定期的に掃き掃除をお願いいたします。

目地に人工芝を使用する場合は、落ち葉や埃の付着が発生しやすいため、定期的な取り除きをお願いいたします。放置すると苔や雑草の発生につながります。

冬期間の注意事項※アスファルト舗装と同様です。

- ・舗装の上で氷割りをしないでください。
- ・雪かきスコップで表面を強く擦らないでください。
- ・お湯をかけないでください。
- ・昼夜間の寒暖差で夜間にブラックアイスバーンになる場合がありますので転倒に注意してください
- ・融雪剤を撒くと劣化や染みを引き起こします。

有償メンテナンスのご案内

1. ひび割れ補修材

コンクリートのひび割れを補修する製品があります。

2. 補修仕上げ材

経年劣化に対して打ち直し無しで補修コーティングが可能な製品があります。仕上がりはコンクリート近似色のため新品の土間コンクリート舗装の風合いとは異なります。

現地調査などを経て、どのような補修ができるかをご案内させていただきます。

お手入れガイド 北海道版

ドライテック



●ドライテック(透水性コンクリート舗装)とは

ドライテックとは透水性コンクリート舗装材の一種で、雨水を地面にしみ込ませる性能を持つ、環境配慮型の舗装材料です。地下水の涵養やヒートアイランド現象の抑制に期待できます。

通常のお手入れ

1. 目詰まり防止のための定期的な清掃

透水性を維持するための清掃をすることをおすすめいたします。砂や土、落ち葉が表面にたまると透水性が低下するため、定期的にはうきやプロワーでの清掃をお願いします。こびりついてしまった汚れや目詰まりは高圧洗浄機での清掃もできますが、出力によっては表面を傷める可能性もあります。目立たない箇所で高圧洗浄機を地面から離した位置から試すなどして試してからご使用ください。洗剤は変色や表面の劣化を招く恐れがあるため使用しないでください。

2. 雑草対策

湿気が多いところでは表面に苔が生じることがあります。ブラシでの擦り洗いをしてください。また風が吹き込み滞留やすい場所では種がたまり発芽する可能性もあります。雑草が生えてきた場合は早期に抜き取りなどをおこなってください。

注意事項

コンクリート製品のため、クラック、白華現象、収縮が生じることがあります。

冬期の凍上による路盤の持ち上がりによって、一時にひび割れが目立つ場合がありますが、路盤の凍結がとけ凍上がおさまると舗装面のひび割れが目立たなくなる場合が多いです。骨材は点接着のため完全に接着されない部分が必ず生じます。それに起因するセメントペーストの剥離、骨材の剥離、飛散が起こりますが、軽微な場合は仕様上の特性であり、性能上、強度上有問題はありません。

冬期間の注意事項

- ・舗装の上で氷割りをしないでください
- ・雪かきスコップで表面を強く擦らないでください
- ・お湯をかけないでください
- ・昼夜間の寒暖差で夜間に表面が凍結する場合がありますので転倒に注意してください
- ・融雪剤を撒くと劣化や染みを引き起こします

透水性が低下した(目詰まりした)状態で冬期を迎えると、凍結時の膨張で舗装面が割れるリスクが高まります。

冬を迎える前に舗装面をチェックし、プロアーや高圧洗浄機で清掃をしてください。

インターロッキング

●インターロッキングとは

インターロッキングとはコンクリート製のブロックをかみ合わせるように敷設したもの指します。

通常のお手入れ

1. 日常の清掃

表面に付着した汚れは水とデッキブラシ、ほうきでの清掃が基本です。こびりついてしまった汚れは高圧洗浄機での清掃もできますが、出力によっては表面を傷める可能性もあります。目立たない箇所で高圧洗浄機を地面から離した位置から試すなどして試してからご使用ください。洗剤は変色や表面の劣化を招く恐れがあるため使用しないでください。

2. 雑草対策

枯れ葉や砂、泥などが目地(かみ合わせたブロックとブロックの隙間)にたまると雑草の発生原因になります。特に風が吹き込み滞留するところや近隣環境によってはあっという間に生えてくることもあります。早めに抜き取る等の除草が必要です。

3. 目地砂の充填

雨風、掃除、雑草抜きなどで目地砂が徐々に減少していきます。目地砂が抜けてしまうとブロックがガタつく原因になるため、定期的に砂を充填してください。

●もし割れてしまったら…

→破損箇所を交換することで有償メンテナンスが可能です。

●もし沈みはじめたりズレ始めてしまったら…

→例えば雨水の通り道になっているなどの原因がありますので、対策を立てて有償メンテナンスをすることが可能です。

早期に対応することで軽微なメンテナンスで済む場合が多いため、担当者までご連絡ください。

冬期間の注意事項

- ・舗装の上で氷割りをしないでください
- ・雪かきスコップで表面を強く擦らないでください
- ・お湯をかけないでください
- ・昼夜間の寒暖差で夜間にブラックアイスバーンになる場合がありますので転倒に注意してください
- ・融雪剤を撒くと劣化や染みを引き起こします
- ・雪解け後に凍上の影響を受け凹凸が生じることがあります。地中の水分が抜けていく過程で凸凹が小さくなることがあるため様子を見ることをお勧めいたします

お手入れガイド 北海道版

人工芝

通常のお手入れ

1. ゴミや枯葉の除去（週1回～月1回）

プロワー、ほうき、熊手で落ち葉・砂・ゴミを取り除きます。これにより雑草が生えにくく、毛足が寝にくい状態を保つことができます。金属製の硬い熊手は芝を傷つけやすいので、プラスチック製の熊手等が最適です。特に落ち葉の多くなる季節はそれと同時に地表面が乾きにくくなる時期でもありますので、晴れた日に取り除くようにし雪が積もる前に清掃を終えることがポイントです。

2. ブラッシング

人工芝は踏圧や雪で毛が寝ていきます。デッキブラシや人工芝用ブラシで毛足を逆立てるようにブラッシングすることでふかふか感を戻すことができます。

注意事項

・無理な除雪（雪をすべて取り除く等）、氷をはがす、氷と割る、などの行為は人工芝が裂けたり毛が抜けたり折れてしまったりするので行わないでください。雪かきする場合はプラスチックスコップを使い、できるだけ地表面ぎりぎりを除雪せず、人工芝本体に負担がかからないようにしてください。

曝露状態の防草シート、防草シートの上に敷いたビリ砂利に対する雪かきの方法も共通です。

防草シートとビリ砂利

通常のお手入れ

1. 雜草の除去

防草シートは雑草の侵入を完全に防ぐことはできません。そのため飛来し発芽したものを抜き取る等で除去してください。こちらを放置すると雑草の生えたところに塵等が溜まり、植物にとって成長しやすい環境となります。ビリ砂利も敷きたては透水しやすい環境ですが、雑草の除去を怠ると塵等が溜まり保水性が増していき、より雑草が生えやすい環境になります。落ち葉の多い季節はこちらも除去してください。

注意事項

・道路際に砂利を敷いた場合、雨水や風で道路へ砂利が流出する場合があります。地域の方々の歩行の妨げになるほか、舗装面の砂利を踏みつけて車両が通行する状況になると、敷地内の舗装面や公道の舗装の損傷や、砂利の飛散による家屋や車両の損傷やケガ、事故の原因にもなりうる可能性がありますので、ほうき等で敷地内へ戻すように心がけてください。

・雪かきによる砂利の流出や経年による影響で砂利の量が少なくなっていくことが多いです。特に住宅の基礎まわりの砂利の量が減少すると基礎の仕上げ（塗装や左官等）をしてない部分が露出してしまうことがあります。その場合は有償で砂利を追加することができますのでご相談ください。

砂利はホームセンターで袋売りをしていますので、DIYでやせたところに追加することもできます。重たいものを運び込み敷く労力と時間はかかりますが安価に良環境を維持することもできます。

※ただし、現状敷いている砂利の色味をまったく合わせることは困難です。砂利は自然環境の中で経年変化をしていきますので、似たようなものを敷いて既存の砂利と混ぜて散らすことでなじませることができます。

お手入れガイド 北海道版

コンクリートブロック、レンガ、タイル張り等の塀(壁/ウォール)

経年変化について

●経年変化とは年月を経て風合いが変わることです。この経年変化は避けることはできずどのような素材や製品にもおこります。これはデメリットではなく、経年変化による良い味わいというものもあります。正しいメンテナンスを続けていくことで真新しかった素材や製品が住居や周辺環境へと馴染むことで、そこにその地域をつくる雰囲気(調和)が生まれていきます。それが安全な状態であれば、少々の汚れや風化は過度に気にせずお過ごしください。しかし塀によくみられる白華現象がある場合は適切に早めのお手入れをすることで大きく風合いを損ねずに済みますので、下記を参考にお手入れをしてください。もしくは弊社までご相談ください。

通常のお手入れ

1. 白華現象について

白華現象(エフロレッセンス)とはコンクリートやレンガなどの表面に白い粉や結晶のようなものが浮き出てくる現象のことです。コンクリート・モルタル・レンガ・インターロッキングなどの内部に含まれる 可溶性の塩類(カルシウム、ナトリウム、カリウムなど)が、雨水や地下水などの水分に溶け出し表層に水溶液が移動し乾燥する際に結晶成分が残る現象です。この現象がもたらす美観低下が主問題となります。構造的にすぐに劣化させるわけではありませんが、長期的な放置は表層を脆弱化させるケースもあります。

2. お手入れ方法

水溶性の汚れなので水洗いが有効です。白華汚れがひどい場合はナイロンブラシ等で軽くこすることで除去することができます。

冬期間の注意事項

・融雪剤の使用に注意

塩化カルシウム・塩化ナトリウムなどの融雪剤はコンクリートやレンガ内部のアルカリ分と反応しやすいため使用しないでください。

・除雪作業時の配慮

金属製のスコップやで表面を傷つけるとそこから水分が浸入する可能性がありますので気を付けて除雪をおこなってください。

・春先の雪解け時に白華現象が発生しやすいため、こまめに確認をしてください。

塗り壁

通常のお手入れ

●塗り壁面に付着したほこりを払うように、模様付けの目に沿って掃き出してください。やや硬めの箒を使用すると傷がつきにくいためおすすめです。デッキブラシなどで擦ると傷がつく可能性があるため控えてください。

雨だれなど汚れ除去

●薄めた中性洗剤を使用し汚れを浮かしだしホースの流水で洗い流してください。高圧洗浄機は塗り面を痛める可能性がありますのでご注意ください。



床仕上げタイル

汚れにくいタイルについても
お手入れをすることでその美しさを保つことができます。

1. 日常的なメンテナンス

乾いた汚れ(砂・ホコリ)

→ ほうきやプロワーで定期的に清掃をすることで美観を保つことができます。

2. 季節ごとのメンテナンス

春(雪解け後)

・融雪剤(塩化カルシウム)の残留を水洗いで流す。

・タイル目地の割れや浮きの点検。

冬期間にできた細かいびび割れに水が浸入すると、
白華現象や剥離につながるためお早めに施工店にお問合せください。

夏

・カビ・苔対策:日陰や水回りタイルは苔や黒カビが発生しやすい。
定期的な日常メンテナンスをしてください。

秋

・落ち葉や土埃を放置するとシミや変色の原因に。
定期的な日常メンテナンスをしてください。

冬

・除雪注意:金属スコップは避け、樹脂製やゴム付きスノーブラシ等を使用。
・融雪剤の多用禁止:白華現象やタイル剥離の原因になります。

お手入れガイド 北海道版

そのほか

スチールカーポート、ガレージ、物置、ポスト、宅配ボックス、サイン、等の金属製品等

各メーカーのカタログや説明書にお手入れの方法が記載されていますのでそちらを参考にお過ごしください。

木製品

木製品は年月が経る中で、節の落下、反り、ささくれ、干割れ、変色が生じことがあります。それは木製品の味わい深さであり魅力です。日ごろのお手入れを行うことでより美しい風合いを楽しむことができ、耐久性をもたらすことができます。

定期的な掃き掃除と拭き掃除、1~2年ごとを目安に再塗装

石材、石張り

塵や土砂が長時間付着しているとシミ等につながります。それが経年による味わい深さや美しさにつながりますが、御影石の本磨き仕上げなどの場合、艶や重厚感を保つために清掃することをおすすめしています。ウエスでの水拭きや乾拭きをしてください。

共通のお手入れ方法：箒等で軽く掃く

御影石の本磨き仕上げなど：ウエスでの乾拭き、水拭き

ゴロタ石などの石材に含まれる鉄分が空気中の酸素に触れることで変色を起こすことがあります。

ライト

ライトの表面に汚れが付着していると明るさの低下につながりますので、埃等の汚れを感じたら拭き掃除を行ってください。デリケートな材質を使用している灯具につきましては各説明書等を確認し適切に清掃を行ってください。

ランプの交換は必ず電源を切ってから行ってください。

点灯中や消灯直後にランプに触れないでください。やけどの恐れがあります。

お手入れガイド 北海道版

樹木、草花のお手入れ

主にシンボルツリー等で植え付けた樹木について

水やり

日々観察し、樹木の個性を考えながら手入れをおこないます。

・植え付け直後

植え付け直後は毎日たっぷりと水を与えます。植え付けたばかりの樹木は摂取できる水の量が少ないため、必要量を摂取できるように多く水を与える必要があります。

・地面が乾いたらたっぷり水を与える

樹木の乾き具合が分かるように日ごろから葉の様子を観察しておきます。根元の地面を触って確かめ、地面が乾いてきたら水をやります。一度にたっぷりと与えることが大切です。木の足元に草花を植えている場合はその分も考慮してより多めに与えてください。

・葉や幹にも水分を与える

水分は葉や幹からも吸収されます。湿る程度でいいので水をかけてください。ただし高温の日(直射日光が当たる日)は水滴がレンズの役割をして葉焼けをおこしてしまいますので行わないでください。

・季節によって水を与える時間を考える

春～夏にかけて日中に高温となる時間帯は水やりを避け、早朝と日が沈むころに水やりを行います。晩秋以降の夜間に凍れる季節は樹木や地面の凍結につながる恐れがあるため乾燥してから暖かい時間帯に水やりを行ってください。降雪がはじまる冬は水やりは不要です。

施肥

植物に栄養を与えた土を元気にするためにおこないます。

・二年目から与える

植え付け直後は水分の吸収量と同様に養分もたくさん吸収できません。その状態で栄養を多く与えてしまうと根を痛めてしまうため、根をしっかりと張った二年目の冬前から与えると良いです。

・年に二回程度に分けて施肥

施肥は樹木の休眠期(12月～2月の冬期間)と、花後の2回に分けて行うと良いです。葉や枝を大きく伸ばす夏場に施肥を行うと肥料やけを起こすため行わないでください。一度に多く与えすぎると病気の原因にもなるので注意をしてください。また肥料は根に直接つかないように注意が必要です。

剪定

健やかな成長を促すためにおこないます。

剪定によって不要な枝を取り除く目的は、日当たりや風通しを改善し樹木の健康を維持することです。また樹木のもつ樹形の美しさの維持も兼ねています。

・注意事項

冬を迎える前の休眠期に剪定を行ってください。

強く剪定をしたり頻回に行うと樹木よっては弱ってしまうことがあります。

剪定をする前に樹種の特徴を確認するようにしてください。

ニオイヒバなど鋸を嫌う樹種もあります。その場合は手摘みで行ってください。

枝を切り落とすとそこから生えてこない樹種もあります。

ツツジ等の花を楽しむ樹種は花後の花芽が付く前に剪定を行ってください。

わからないことや不安なことがあれば専門店や専門家に剪定を依頼することも大切です。

管理ができない状況になる前にご相談ください。

お手入れガイド 北海道版

樹木、草花のお手入れ

主にシンボルツリー等で植え付けた樹木について

病害虫対策

樹木のSOSにいち早く気が付くことが大切です。

・庭の環境を整える

病害虫対策の基本は、雑草の処理と清掃と剪定によって日当たりと風通しの確保をすることです。

殺虫や殺菌効果のある薬剤を散布することも効果的です。

日々のお手入れの際に葉の裏や根元、幹のチェックをすることで害虫の存在に気が付きやすくなります。

・樹種によってつきやすい害虫がいる(事前に知っておく)

害虫は様々な種があり、樹種によってつきやすい害虫も異なります。お庭に植えた樹種につきやすい害虫を事前に調べ、どのような害虫なのか、どのように対策をしたらよいかを調べておくことで、その場面に出くわした際に素早く対応をすることができるようになります。

・プロに相談する

そうは言っても、樹木の病気は早期発見が難しいです。目で見て症状が分かるようになった時にはかなり症状が進行している場合もあります。病気の部分は取り除き(二次被害を防ぐため密閉した袋に入れる等し隔離して下さい)、薬剤を散布してください。調べても原因がわからない場合は相談をお願いします。